ご挨拶

校長　京角　輝彦

次期学習指導要領に向けた今後の検討の基盤となる基本的な考え方として、中央教育審議会教育課程企画特別部会は「論点整理」(令和７年９月)の中で、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手」を育むため、①「主体的・対話的で深い学び」の実装（Excellence)、②多様性の包摂（Equity)、③実現可能性の確保（Feasibility)の３つの方向性を踏まえて議論を行うことを示しました。このうち、①「主体的・対話的で深い学び」の実装は、現行学習指導要領が目指している、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図ることを明確にしています。そして、思考力、判断力、表現力等を発揮する中で、知識の概念としての習得や深い意味理解を促すこと、他の学習や生活の場面でも活用できるような、生きて働く「確かな知識」を習得すること、学びに向かう力、人間性等を育成することが一層重要となる中、「主体的・対話的で深い学び」の実装は、次期学習指導要領に向けた第一の方向性とすべきものと位置付けています。

本校では昭和 41 年度以来、「主体性の高まりをめざす課題学習」を主題に、教育研究活動を続けてきました。生徒が真に生きる力を身に付けるためには、生徒自身が主体的に思考し、判断する学習活動が保障されなければならず、そのためには、学習の主体者である生徒自身が、教材に働きかけ、そこに追究・解決すべき課題を発見し、その解決に取り組むことによって、生きて働く創造的な能力の育成を図る学習活動が展開されなければならないとの考えのもと、本校の課題学習「課題の把握に始まり、把握された課題に対して、生徒自身が解決に立ち向かう一連の活動」の中で、課題を設定・把握する段階からすでに生徒が学習に参加し、設定された課題を追究・解決する中で、学習内容と学習方法が統一的に習得されると考え、各教科等での教育研究活動を積み重ねてきました。昭和 40 年度の研究紀要の中に、主体性の意義について、「教育の目的は主体性を高めることにある。また主体性は、その本質からして他から与えられるべきではなく、生徒自身の主体的努力で高めるべきものであるから、教育の方法も主体的学習によるべきだ。」とあります。これまでの研究成果を踏まえ、これからの学校教育に求められる方向性を見失うことなく、今後も教育研究活動に取り組んでいきたいと考えます。

昨年度までは副題を「『見方・考え方を働かせ、『深い学び』を実現する授業づくり」として５年間取り組んで参りました。これまでの成果と課題を踏まえ、今年度から副題を「学びの往来を通して、『自立した学習者』を育成する」として取り組んでいるところです。研究の深まり・成熟には至っておらず、まだまだ研究の途上にあります。皆様方から忌憚のないご意見・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

本校教育研究協議会の開催に当たり、文部科学省、富山県教育委員会、富山県内市町村教育委員会、富山県内中学校、富山大学をはじめ、関係の皆様方から多大なご指導・ご理解・ご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。日頃からのご指導・ご支援に重ねて感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。